

編 集 後 記

編集後記とは誰も読まない欄である、と自嘲する書き手もいる。そのせいか、ちょっと肩の荷を下ろした感じの文章が多い。しかし筆者には「編集後記」とは、かくあるべしというお手本がある。今回は、その話である。

筆者が外科の医局に入って間もなく「胸部外科」という商業月刊誌の定期購読を始めた。確か南江堂が版元で、いまも続いているはずである。当時、日大の外科教室を主宰しておられた宮本忍先生が編集主幹で、よく練られた特集企画を売り物に、毎号、力のこもった論文が掲載された魅力ある雑誌であった。その編集後記に毎月、健筆を振るっておられたのが宮本先生である。先生は、掲載論文の特徴、読み所を、一編一編、丁寧に紹介されるだけでなく、時にはその論文が、胸部外科の進化にとり、どのような役割を果たすのかを解説して下さった。優れた見識に裏打ちされた先生の後記は、それ自体、立派な小論文の体裁を成していた。このようなことから筆者は、雑誌が届くとまず先生の後記を読み、それから本文の頁をめくった。あるとき、南江堂の編集者に会う機会があったときこの話をした。彼は即座に大きくうなずくと「あの雑誌を、編集後記から読み進めるのは先生だけじゃありません。皆さん、そうおっしゃいます」と答えてくれた。

本誌の場合も、本来は個々の論文に十分に目を通し、その掲載意義を読者に案内して差し上げるのが真の後記であろうとは、毎回、自戒しているところである。読者にとり優れたナビゲーターの役割を、今回も果たし得なかった。〔高橋 英世〕

編 集 委 員 (50音順 *印委員長)

杉 藤 徹 志*	池 山 淳	粥 川 裕 平
高 橋 英 世	松 本 美 富 士	山 本 武 司

明日の臨床

Vol. 18 No. 2

2006年12月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部